

# 埼玉県見沼田んぼを事例とした都市農地の成立過程に関する研究

A Study on the Establishment Process of Urban Farmland in Minuma Tanbo (Minuma Rice Paddies),  
Saitama Prefecture

中城 美優  
NAKASHIRO Miyu

## 1. 序論

### (1) 研究背景と目的

近年、都市における農地を含む緑地空間の評価が高まっており、求められる役割は拡大している<sup>1</sup>。一方、都市において緑地に含まれる農地が行政に評価されるまでには時間を要している<sup>2</sup>。

江戸時代に田圃として干拓された見沼田圃は、埼玉県さいたま市と川口市に位置し、約1,260haの大規模緑地空間である<sup>注1</sup>。1970年代には、減反政策により田が畑に転換されるなど土地利用が大きく変化し、現在では公園緑地、公共施設なども見られる。埼玉県は1965年に「見沼三原則」を制定、1995年に「見沼田圃の保全・活用・創造の基本計画」を策定した。2011年にはさいたま市が「さいたま市見沼田圃基本計画」を策定し、基本計画を基に「さいたま市見沼田圃基本計画アクションプラン」が作成されている。これらにおいては、生産機能に加えて遊水機能、自然環境の保全、観光、教育・市民活動など期待される機能が多様になっている。

これまで、見沼田圃内の機能や公有地化事業、事業展開をみた研究はあるものの、見沼田圃において現在みられる多様な利用の要因を明らかにした研究は見られない。また、見沼田圃の利用に影響を及ぼしていると考えられる周辺地域の開発や土地利用と、見沼田圃の関係を捉えた知見はない。

本研究は、見沼田圃と周辺地域を対象地として、土地利用の特徴や変遷を把握して相互の関係を把握するとともに、見沼田圃に関連する政策や社会背景および現在の活用について整理・分析を行うことで、見沼田圃の都市農地としての評価とその要因を明らかにすることを目的とした。

### (2) 研究方法

見沼田圃と周辺地域を4区域に区分し、測量年が異なる複数の地形図（表）や史資料を用いて、対象地における土地利用の変遷と歴史や計画との関係を整理するとともに、特徴を整理した（2章）。次いで、見沼田圃の緑地としての特徴を把握するために、対象地における農地（農園・公有地）および公園緑地の分布を把握した（3章）。最後に、見沼田圃における農地活用の特徴を把握するために、2023年現在の

表 使用した地形図（5万分の1）と社会背景

| 測量年           | 社会背景等                  |
|---------------|------------------------|
| 1906          | 最初に発行された5万分の1地形図       |
| 1959          | 高度経済成長期 狩野川台風襲来（1958）  |
| 見沼三原則（1965）制定 |                        |
| 1969          | 高度経済成長期 減反政策（1970年代）直前 |
| 1990          | 減反政策後                  |
| 2004          | 最新の5万分の1地形図            |

対象地における農地と公園緑地の活用について、場所や主体、活動内容からその特徴を把握した（4章）。

## 2. 見沼田圃と周辺地域における土地利用の変遷と計画との関係

市街地化の様子や一体的なまとまりから、対象地を見沼田圃周辺の主要幹線道路および鉄道で囲まれた範囲とし、北西部・北東部・中央部・南部の4つに区分した（図1）。北西部では、周辺地域には1906年から開発されてきた市街地や住宅地が広範囲に広がり、見沼田圃には公園緑地等施設が多く整備されている。北東部では、周辺地域にも見沼田圃にも水田が残っており、市街地化は進んでいない。中央部では、周辺地域南西側に住宅地が増加しているものの、農地が多く残っている。見沼田圃では、減反政策の影響で田から畑や樹木畑に転換しているものの、

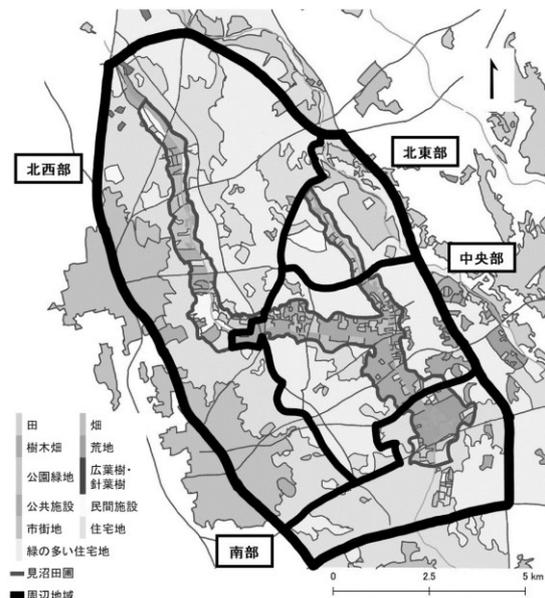


図1 見沼田圃と周辺地域の区分 筆者作成

現在も農地のままである。南部では、周辺地域は南側の川口市から市街地化が進行している。見沼田圃では調整池や荒地、農地が分布している。

### 3. 見沼田圃と周辺地域における緑地の土地利用

中央部に農園や公有地（見沼田圃を保全し県民のレクリエーション利用に用いる）が多く分布し、市民農園や市民団体による活動が展開されていた。見沼田圃と周辺地域の農地が隣接しており、連続性も確保されていた。北西部や南部は周辺が市街地化して農地が残されなかったため、農園が少ないと推察される。北西部は公有地も少なかった。南部は主に川口市域や鉄道沿線で田の公有地が多くみられた。同じく農園が少ない北東部は周辺が市街地化しておらず、近隣住民による農業体験の需要が少ないと考えられる。一方、田では公有地がみられ、見沼田圃に広がる田を活かした体験活動が提供されている地域といえる。

対象地においては、市街地化が進む地域ほど公園緑地が多くみられた。見沼田圃では周辺地域に比べて規模が大きい地区公園が多く整備されており、市街地化の過程においては、見沼田圃も開発用地としてみられ、都市施設が整備されたといえる。

### 4. 見沼田圃における現在の活用

見沼たんぼ公有地利活用推進事業による活動内容をみると、市街地化が進んでいない地域の畑では、活動内容が農作業のみ行われ、市街地化が進んでいる地域に近い畑では農作業に加えた体験活動が行われていた。一方で、市街地から離れた中央部南東側の畑では農作業が中心となっていた。行政による新たな事業が展開されている農地（特に畑）では、周辺地域における市街地化の影響を受けていたと考えられる。一方、田では農作業の他に生き物調査なども行われていた。

見沼田圃の公園緑地および関連施設の設置施設をもとに機能を大きく4分類（緑地・運動・遊水・博物館）して、その分布をみたところ、北西部では各機能を有した公園緑地が一定間隔で整備される一方、北東部では公園緑地は少なく、中央部では運動機能を有する公園緑地が、南部では遊水機能を有する大規模公園緑地が整備されていた。イベントは緑地または運動機能を有する公園緑地および関連施設でみ

られた。運動機能を有する公園緑地では広い空間を要する活動の場として利用されているのに対し、緑地機能を有する公園緑地は見沼田圃の農業や活動に触れる機会を提供していることが示された。

### 5. 結論

市街地化の程度から見沼田圃と周辺地域における土地利用の関係をみると、市街地化が進行した地域（北西部）では、見沼田圃においても市街地開発の一環として公園緑地や施設等の整備がみられた。農地として利活用されている公有地は少なく、活動も限定的であった。市街地化が徐々に進行している地域（中央部）では、生産以外のレクリエーション活動が行われる市民農園が整備されていた。見沼田圃においても、公有地を活用した多様な市民活動が展開されている。市街地化が進んでいない地域（北東部）では、周辺地域には変わらず水田が広がって営農活動が続けられており、見沼田圃においても水田が残り、確保されている公有地とともに市民活動の場として機能していた。市街地化が現在進行している地域（南部）では、周辺地域に公園緑地が整備される一方で、市民農園はあまり確保されておらず、調整池の整備とともに荒地がみられた。

見沼田圃では周辺地域における市街地化の程度によって、見沼田圃の土地利用や利活用も変化していた。見沼田圃において都市農地としての機能を担っているのは、市街地化が徐々に進行しており、農地が多く、多主体によって多様な活用が展開されている中央部であると考えられる。今後市街地化が進行したとしても、都市住民が生産活動とともにレクリエーション活動ができ、また新規就農者用の研修場として都市農地を維持することで、新たな住民による多様な利活用や市民活動の展開が期待できる。さらに都市農地は、農業活動に留まらない多様な活動を行う場としての機能も期待できると考えられる。

注および参考文献

注1) 本研究では約1260haの緑地空間を「見沼田圃」、その周辺地域を含む地域を「見沼田圃と周辺地域」「見沼たんぼ」としている。

- 1) 国土交通省（1973）「都市緑地法」
- 2) 農林水産省・国土交通省（2015）「都市農業振興基本法」

**Abstract:** This study focuses on Minuma Tanbo (Minuma Rice Paddies) in Saitama prefecture, to clarify its evaluation and factors as urban farmland. Minuma Tanbo was classified into four regions according to the progress of urbanization. The area that functions as urban farmland in Minuma Tanbo is one that is gradually becoming urbanized, has a lot of farmlands and where a variety of activities are carried out by multiple actors. By maintaining urban farmland not only for production activities but also as a place for recreation and support for new farmers, diverse uses and development of civic activities can be expected.